技 術・家 庭 科 学 習 指 導 案

平成 30 年９月 10 日（月）　第５校時　２年Ｂ組教室
授業学級　２年Ｂ組（39 名）
授 業 者　　指導教諭

１　題材名　「食生活を工夫しよう」

２　題材設定の理由

２年Ｂ組の生徒は、技術・家庭科の学習において、よりよい生活の実現を目指し、自分の生活を振り返ったり、実践的・体験的な活動を行ったりしながら、生活と科学を結びつけて自身の生活での問題を見つけ、それらを課題解決するために意欲的に学習に取り組む姿が見られる。また、給食の時間には残飯・残菜ゼロを目指して、クラスの友と協力、工夫しながら食べるように心がけている姿が見られる。しかし、それは残飯・残食ゼロを継続するための活動であり、なぜ残飯・残食ゼロを目指しているのかを理解し、行動している生徒は少なく感じる。また、普段食べている食事を当たり前に感じている生徒もいる。

そこで、先人の知恵や願い、環境への配慮の観点から、自分の食事に目的をもって選択していくことの大切さを理解した上で、実生活に生かしていけるようにすることを目指し、学習を展開していく。そのために、学習の始めのきっかけとして長野の郷土料理の資料を基に話し合いながら分類し、気付いたこと（気候風土や歴史など）から郷土料理の特徴を探っていく活動を取り入れる。また、先人の知恵や願い、環境への配慮などを知る資料を提示し、特徴だけでなく先人の想いにも気付けるようにする。さらに、実際に長野の郷土料理である「にらせんべい」を作り、先人の知恵や郷土料理に詰まった想い、環境への配慮などをさらに知り、深めていく。その後、食事の安全や環境に関連したさまざまな問題が起きていること、なぜそれを解決しなければならないかを知り、グループで資料を読み取る活動を通して、問題を解決するための手段を探っていく。そして、グループで問題を解決するために話し合い、そこから私たちができる３つのアクションを決め、クラスで共有し、自分の食生活に対する考えを深めていくことができるようにする。

これらのことから、生徒は身の回りの食生活から日本を取り巻く食生活の現状について考えられることができると考えた。また、自分の食生活を受身的ではなく、積極的によりよくしていこうとする姿につながっていくのではないかと考え、本題材を設定した。

３　題材の目標

①生活や技術への関心・意欲・態度
郷土料理の調理や自らの食生活と環境問題の関連について関心をもつ。

②生活を工夫し創造する能力
自らの食事の選択と食事の選択によって引き起こされるさまざまな問題が関連していることを知り、その解決のために工夫し考える。

③生活の技能
地域の食文化の調理に関する基礎的・基本的な技術を身につける。

④生活や技術についての知識・理解
郷土料理や食事の選択によって引き起こされるさまざまな問題の関連について理解する。

４　題材展開

全４時間扱い　本時は第３時

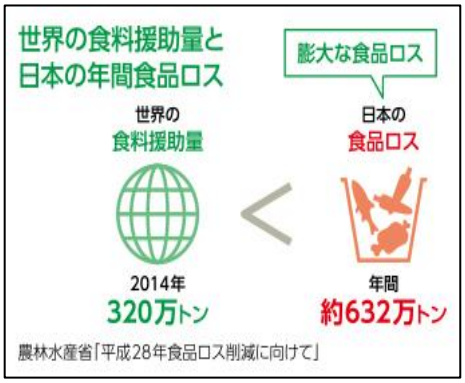
時間	学習内容	教師の指導・助言
1	地域の食文化「郷土料理」について特徴を知る。	長野県の郷土料理の一覧から郷土料理はどのようなものかを調べることで、郷土料理は先人たちが長野県の気候や風土を生かして生み出したものであることに気付く場を設定する。
2	長野に伝わる郷土料理「にらせんべい」を作る。	長野に伝わる郷土料理「にらせんべい」を実際に調理し、その料理に込められた先人の知恵や想いについて考える場を設定する。
3	食生活を取り巻く課題について知り、今の自分ができることを考える。	様々な角度から日本が抱える食生活の問題を見つけ出し、その問題について今自分が取り組めることを考える場を設定する。
4	食品の安全性について考える。	食品の安全性をどのようにすれば確保できるかを考える場を設定する。

５ 教材化

① 郷土料理

郷土料理には、先人の様々な知恵や想いが込められている。長野の郷土料理の一つ「にらせんべい」を実際に作り、試食し、おいしさを味わうことで先人の知恵や想いを自分たちも受け継いでいけることを知ることができる。また、先人は自分たちの生活を豊かにするために環境に配慮した食生活を送っていたことを知り、自分たちの食生活について振り返ることができる。上記のことをねらい、郷土料理を扱う。

② 取り上げる問題「食料自給率の低下」「フードマイレージの高さ」「食品ロスの多さ」「ごみの問題の多さ」



本時では、日本における食生活の問題から自分の生活を見つめ、今の自分のできることを考える活動を行う。ここで挙げる問題として、「食料自給率」「フードマイレージ」「食品ロス」「ごみの問題」の４つを取り上げる。これは、日本のおかれた問題が見つけやすく、他の問題と関連付け、問題に対する対策・取り組みについてより多角的に考えることができる。「食料自給率の低下」では、日本における重要な問題の１つで、世界で食料危機が起きた場合、日本が食料を輸入できる可能性は低くなり、地産地消つなげて考えることができる。「フードマイレージの高さ」では、資源の消費や地球温暖化につながることから、今年の酷暑にもあるように環境問題の一つとしても生徒たちは身近なところとして考えられ、地産地消ともつなげて考えることができる。「食品ロスの多さ」では、実際の様子から無駄を減らすことで環境や社会をさらによりよくすることを考えることができる。「ごみの問題の多さ」では、生徒自身も日常生活でよく目にする場面であり、より身近な問題として捉えやすく、取り組みについても考えやすい。

上記の問題を取り上げることから、今の自分の食生活をよりよくしていこうとする意欲につなげていくことをねらいとする。

６ 本時案

① 主眼

よりよく食生活をおくるために自分たちにできることは何かを考える場面で、日本の食に関わる問題に着目して、その問題が起きている原因を考え、グループで話し合い、よりよい食生活を送るために『私たちができる３つのアクション』を決める活動を通して、よりよい食生活をめざす意欲を高めることができる。

② 本時の評価規準

今の自分にできることを考え、食生活を工夫しようとする意欲が高められている。

③ 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応（**太字はキーワード**）	◆学習内容◇教師の指導・援助	時間	備考
はじめ	1 本時の学習課題を設定する。	ア こんなに残ってもったいない。何とかしないといけない。自分にできることは何だろう。	◆給食での残飯の様子から、自分たちの食生活を振り返り、学習問題を確認する。	10分	パワーポイント 学習カード
		学習問題：私たちができることは何だろう。			
		イ 社会の学習で日本は食品自給率が低いことを習った。 ウ 聞いたことがあるが、コンビニで賞味期限が切れたお弁当などごみとして捨ててしまうらしい。 エ フードマイレージとういう言葉を初めて知ったが、日本の食糧事情は環境にもよくない。 オ ただ今まで何も考えずに好きなように食べてきたが、私たちも何かしないといけない。	◇日本の食に関する問題として他にはどのようなものがあるかを問う。 ◆出た問題も含め以下の四つの問題をまとめる。 ①食品自給率の低下 ②フードマイレージが高い ③食品ロスが多い ④食品に関するごみが多い ◇このままでよいかを問い、オのような発言を基に学習問題を設定する。		
		学習課題：食生活の問題に着目して、『私たちができる３つのアクション』を考えよう。			
／な	2 グループごとに問題が起きること原因を考える。	カ 食料自給率の低下の原因として、国産のものより安い外国産の食品を買う人の存在があるからではないか。 キ 日本のチョコレートと海外のチョコレートを比べてみると日本のチョコレートは包装が何重にもなっていて、ゴミがたくさん出そうだ。	◆四つの問題それぞれがなぜ起きてしまうのかを資料から読み取り、グループごとに原因を考える。 ◇机間指導をしながら問題と現状と比較して考えられているか確認する。 ◇グループごとに考えた日本が直面している問題をクラス全体で共有できるような場を設定する。	10分	資料 ホワイトボード マジック
か	3『私ができる３つのアクション』を考える。	ク 食事が洋食に変化したことが原因と思うので、地域で生産された物を買うことで食料自給率を上げフードマイレージを下げられるのではないか。 ケ 私たちの班では、「①残さず食べる。②地域の物を食べる。③買い物の時にエコバックを持っていく。」の３つに決めた。 コ 「残さず食べる」にしよう。	◆原因を基に『私たちができる３つのアクション』を班で考え、全体で意見共有する。 ◇今の自分にできそうなことという観点を大切に決め出すように声掛けをする。 ◆全体の意見を基に、今の自分にできそうな活動を決め出す。 ◇自分の食生活を考えながら、活動を決め出すように声掛けをする。	20分	
／ま	4 本時の振り返	サ 食生活に関する問題を意識して、決め出した「残さず食べ	◇学習カードに本時の学習をふまえた振り返りを記入し、発表するよ	10分	

とめ	る。	る」を実践したい。	うに促す。		

7　座席表　　男子 18 名　女子 21 名　計 39 名